

## セルフスタディプロジェクトを通して学習者の自律性を育てる Developing Learner Autonomy through Self-Study Projects

池田朋子, マギル大学  
Tomoko Ikeda, McGill University

### 1. 実践の背景と目的

ここ数年の急激な ICT (Information and Communication Technology) の発展により、教室を必要としない日本語独習者が世界中で急増している。ソーシャルメディアを利用すれば他者からの学びも可能になり、ソーシャルメディア自体が教室 (村上 2018) だとも言われるようになった。しかし、その一方で、ある程度日本語を学んだ独習者が、大学の日本語クラスに編入するというケースも増加している (池田・池田 2018)。その理由は様々であるが、独習者の全体数の増加とともに、このケースもますます多くなるだろうと予想される。独習後に日本語クラスに編入する学習者 (以下、独学経験者) は、日本語の四技能をバランスよく一斉授業で学習してきた他の学習者に比べ、一つまたは二つの技能が突出していることが多い。そのため、独学経験者が混在するクラスでは、学習者間のレベル差が指摘されるようになった。また彼らは日本語クラスを受講中も独習を続けるため、学期が進むにつれて、その差がさらに大きくなる場合も少なくない (池田 2016)。

筆者はこのレベル差への対応策として、2019 年度よりセルフスタディプロジェクトを取り入れている。これは、各学習者がアニメ、歌、漢字や文法のアプリなど、自分の好きな教材を選び、一学期を通して学習を進めていくというものである。この取り組みにより、各学習者が自身のレベルに合った学習を進めることで、元々のレベル差によらず、学習の過程が評価されること、また、元々自律学習能力を持つ独学経験者と、プロジェクトの方法や計画をシェアすることにより、他の学習者にも自律学習を促すことが狙いであった。本稿では、2021 年冬学期に行ったセルフスタディプロジェクトの実践を報告する。

### 2. 先行研究

#### 2.1 セルフアクセスセンターによる自律学習

近年、主体的な外国語学習の場として、ICT を活用したセルフアクセスセンターを開設する教育機関が増加傾向にある。セルフアクセスセンターというのは、学習者オートノミーの定義に基づき、自己主導型学習を実現させるために、ヨーロッパを中心に大学の学習施設として始まったものである (青木 2010)。学習者オートノミーとは、学習者が自分のニーズや希望に役立つように、何をどのように学ぶか、学習の成果をどのように評価するかを意思決定をし、自分の立てたプランを実行する能力 (青木 2001) であり、セルフアクセスセンターは、学習者オートノミーの育成を目指し、授業外の自習用として利用される場合が多い。しかし中には、セルフアクセスセンターでの学習を大学の科目として扱い、成績に含めているという報告もある。その一つであるマレー (2011) では、日本国内での英語教育において、セルフアクセスセンターを利用した自己主導型学習科目

について報告されている。この科目では、ポートフォリオに学習を記録させ、学期の終わりに、学習者と言語アドバイザーがポートフォリオにファイルされたものを検討し、双方の合意によって成績をつける。マレーは収集されたデータから、学習者は自分の学び方を自分でコントロールする自由があるとき、学習に対する責任を引き受ける気になると述べている。

日本語教育では、自律学習を基盤とした科目「チュートリアル」を開講している齋藤他（2014）による報告がある。この科目は、日本語学習リソースセンターやライティングサポートセンターを提供することによって、内容や学習進度を個別の目標に応じて設定し、各自が今後の学習に役立つ自律的な学習姿勢を養うことを目的としている。この日本語学習リソースセンターは、自律的な学習の支援だけでなく、留学生が授業時間外に集える場所、一種のコミュニティーとして機能しているとも報告されている。また、中嶋他（2020）は、学習者が学習過程を自ら調整していけるようになることを目的に、学習者自らが設定したテーマや課題、目標に沿って学習を進めていくクラスについて報告している。中嶋らは、学習者からの発信に対する教師の働きかけ（反応やコメント）には、「動機を強化・維持する」、「思考の深化を促す」という共通する機能があることを明らかにし、特に後者は、学習者が自己の課題に気づき、柔軟に視点や方法を変えて学習に取り組めるようになるために有効であると述べている。

本実践は、セルフスタディーという一つのコースではなく、コースワークの一部としてセルフスタディーを取り入れるという点で、上記の報告とは異なるが、これらのセルフアクセスセンターや自律学習科目の考え方を基に実践を計画した。

## 2.2 独習者に関する調査

前述したように、大学の初中級以上のレベルのクラスに独習者が編入するケースが、この数年で増加している。独学者が加わることにより、学習歴・学習スタイルが多様化した教室内では、クラス内のレベル差が拡大し、従来の教室活動が成立しにくくなってきた。また、クラス内のレベル下位者からは、全員を同じ基準で成績を付けるのは不公平だという不満の声も上がっている（池田・池田 2018）。しかしその一方で、独学経験者へのインタビューからは、短期間で日本語を習得しているクラスメイトから刺激を受けていること（池田 2018）や、どんなレベルのクラスメイトにでも、相手にわかるように伝えるという行為が学びになっていると自ら感じていること（池田 2019）が報告されており、彼らはクラス内でのレベル差に関係なく、他者からの学びを実感していると考えられる。そこで、このように自ら学んでいける学習者オートノミーをすでに持っている独学経験者（青木・中田 2011）がどのようにセルフスタディーを計画し、実行するかをクラス内で共有することが、他の学習者の学習スタイルに影響を与えるのではないかと考えた。そこで本実践では、セルフスタディーについてクラスメイトと共有する時間をできるだけ多く設け、お互いに学び合う機会を提供するように心がけた。本稿では、クラスメイトとの情報交換の結果、学習者がセルフスタディー開始後に、どのように計画を変更しながら学習過程を調整していったかに注目して、分析を行う。

### 3. 実践概要

#### 3.1 対象クラス

セルフスタディープロジェクトを行ったのは、初級と中級のライティングコース2クラスである。各クラスの詳細を表1に示す。コースのレベルは、初級前半終了レベルと初中級から中級前半レベルであるが、内訳に示した通り、学習者は様々な学習背景を持ち、クラス内のレベル差はどちらのクラスも大きかった。

表1 対象クラスの詳細

|      | 初級ライティングコース                                | 中級ライティングコース  |
|------|--|--|
| 実施期間 | 2021年冬学期(1~4月)                             | 2021年冬学期(1~4月)                                       |
| 人数   | 10名  | 12名  |
| 内訳   | 独学経験者2名、継承語話者4名、<br>学内他クラスから3名、他機関から<br>1名 | 独学経験者3名、継承語話者2名、<br>学内他クラスから1名、他機関から<br>2名、日本留学経験者4名 |
| 授業時間 | 1.5時間 x 2回/週 x 13週                         | 1.5時間 x 2回/週 x 13週                                   |
| レベル  | 初級前半終了程度                                   | 初中級~中級前半   |

#### 3.2 セルフスタディーの手順

表2にセルフスタディーの手順を示す。学習者は何でも好きなものをセルフスタディーの題材に選んでよいが、参考までに、教師は先輩学生が利用したアプリやウェブサイトなどをクラスで紹介し、計画の立て方などに対する先輩のコメントも伝えた。初めは無理な計画を立てる学習者が多いため、教師との個人面談では、他のコースの試験などを考慮して、ペースを少し落とすように助言することが多かった。また、アニメやドラマ、漫画などは、見るだけ、読むだけでは何を学んだかがわからないので、感想を書いたり、言葉をメモするなど、何かレポートと一緒に提出できるものを残すように指示した。セルフスタディーを開始してからは、オンラインでの授業中に、1週間から2週間に一度のペースで、ブレイクアウトルームを利用し、セルフスタディーについてクラスメイトと共有する時間を設けた。

表2 セルフスタディーの手順

| 週           | 活動内容   |
|-------------|--|
| 第1週         | 好きな題材を選び、学習方法を決める  |
| 第2週         | 計画書を提出(題材、学期の目標、学習方法、週ごとの計画)                                       |
| 第3週         | 個人面談(1人30分、Zoom) → その後計画書を修正して再提出                                  |
| 第4週<br>~12週 | セルフスタディー開始/毎週、週間レポートを提出(Padlet使用) /<br>計画を変更した時はその都度修正版を提出/クラス内で共有 |
| 第13週        | プレゼンテーション+最終レポートを提出  |

週間レポートの提出には、Padletを使用した。一人に1つのPadletのリンクを与え、Shelfというレイアウトを用いて、計画書、週間レポート、勉強したこと(ノートの写真、読んだ記事のリンク、録音ファイルなど)、最終レポートを提出させた。それぞれのリンクはクラスで共有し、クラスメイトのPadletを見るこ

とができるようにした。週間レポートはシンプルなフォーマットを用意し、学習者は1週間の学習時間と、何をしたか、どうだったかを毎週記入していった。教師はコメント欄を利用し、毎週短いコメントを残すようにした。また学習者が質問を書き込んできた場合も、コメント欄に回答した。

最終レポートは、フォーマットは自由だが、計画（変更した場合、その理由）、よかったこと、難しかったこと、これからの学習計画、後輩へのメッセージの5点を含めて書くよう指示した。

### 3.3 セルフスタディーの評価

両クラスともセルフスタディーの評価を最終成績の15%に加えた。内訳は表3のように、提出点を5%、週間レポートに関する点を5%、最終レポートとプレゼンテーションを5%とした。この内、週間レポートの2%を自己評価とし、学習者は毎週学習が計画通りできたかどうかを5段階で評価した。また、コースが「ライティングコース」であるため、最終レポートでは日本語の正確さも評価に加えた。プレゼンテーションは教師は評価せず、クラスメイトの評価（わかったかどうか5段階評価）のみとした。

表3 セルフスタディーの評価の内訳

| 項目     | 内容                           | % |
|--------|------------------------------|---|
| 提出点    | 期限内に提出したか（計画書、週間レポート、最終レポート） | 5 |
| 週間レポート | 教師の評価：必要事項が書かれているか           | 3 |
| 週間レポート | 自己評価：計画通りできたか                | 2 |
| 最終レポート | 教師の評価：詳しさ、日本語の正確さ            | 4 |
| プレゼン   | クラスメイトの評価：わかったか              | 1 |

### 3.4 分析資料

結果の分析には、週間レポートに書かれた学習時間、最終レポート、学期終了後に行ったアンケートを使用した。アンケートは英語での記入可としたが、質問が最終レポートとほぼ同じだったためか、回収率が41%と低かった。そのため、今回は主に最終レポートのコメントを資料として用い、アンケートの結果からは、最終レポートに見られなかったコメントのみを取り上げた。

## 4 結果と考察

### 4.1 選んだ題材・理由、学習時間

学習者が選んだ題材は図1の通りである。一人が2~3の題材を組み合わせる学習するケースも多く見られ、数字はその延べ人数を表している。また、これらの題材を使ってどのように学習するかは学習者によって異なるため、学習方法の詳細を巻末に添付した。「漫画の表紙を作る」や「日本語の歌を作詞作曲する」などを選んだ学習者もいたが、このプロジェクトは、最後に1つのものを完成させるというより、毎週の学習が評価されるものだということを説明し、これらの学習者には、「漫画を読む」、「日本語の歌を聞く」など、制作物の完成をサポートするためのもう一つの題材を追加してもらった。

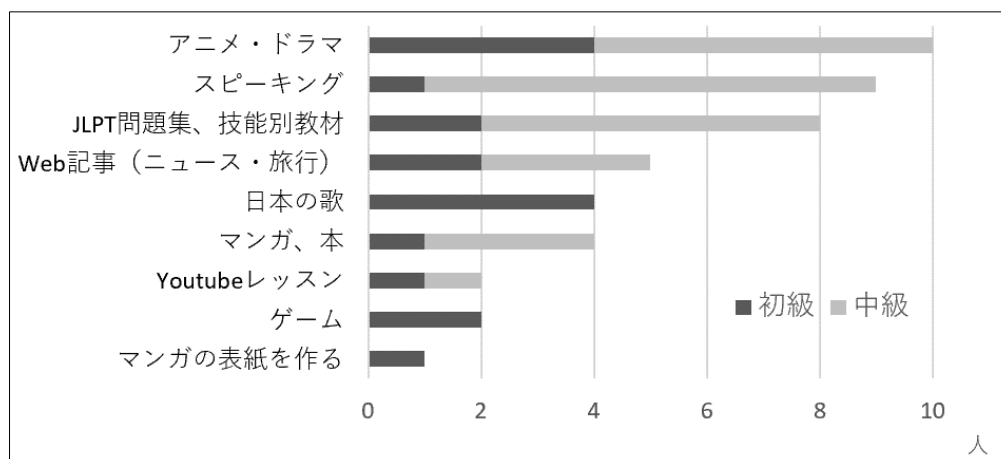


図1 選んだ題材

題材を選んだ理由(図2)は、「興味があるから」「弱点を補強したい」「その他」の3つに分類することができた。「その他」は、「教材が家にあったから」「簡単そうだったから」などであった。これらを見ると、好きだ・興味があるということと、苦手なことに挑戦したいという気持ちの両方がセルフスタディーのモチベーションにつながっていると考えられる。

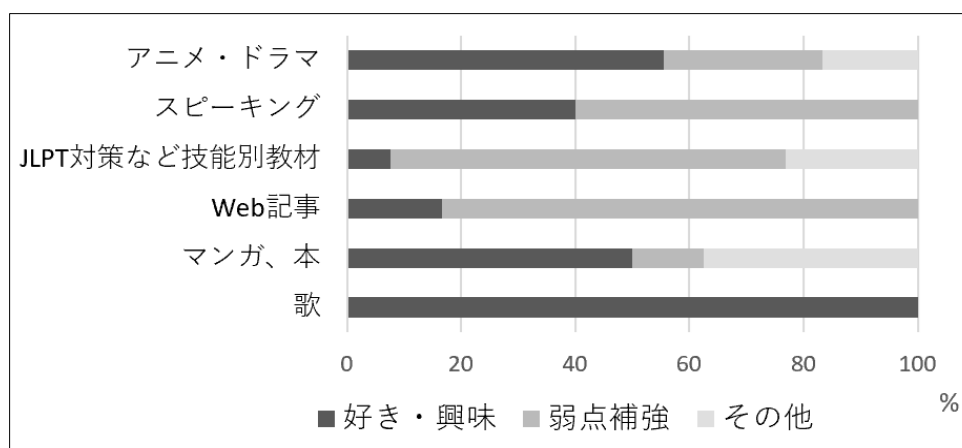


図2 題材を選んだ理由

一週間の平均学習時間は、初級・中級どちらのクラスも2～3時間が最も多く、次いで、1～2時間が多かった。

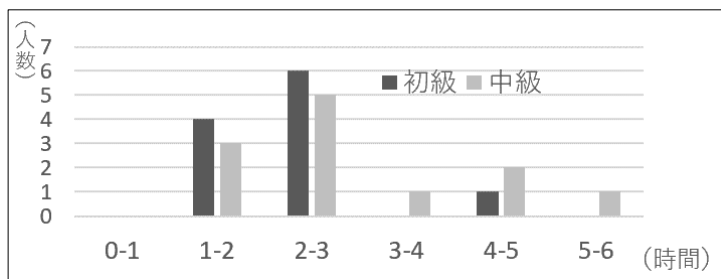


図3 一週間の平均学習時間

#### 4.2 計画の変更回数・理由

学習者は全員、教師との面談の後、計画書を修正して提出するが、それ以降に計画を変更した回数を見ると（図4）、全く変更しなかったのは14%のみで、その他は最低1回は修正していたことがわかる。

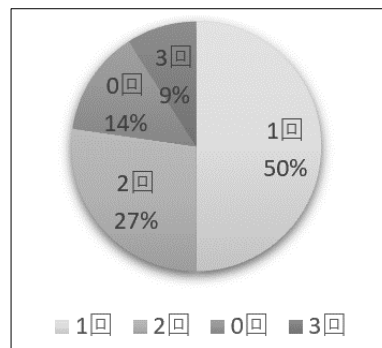


図4 計画の変更回数

図5は計画を変更した理由である。これらのうち、「新しい教材の追加」と「やり方を変更」に関しては、クラスでセルフスタディーについて情報を共有した後のクラスメイトからの影響も含まれると考えられる。「ペースダウン」、「教材のレベルを変更」については、「ドラマのジャンルを簡単なものに変えた」、「途中から字幕を見ないことにした」、「単語リストを書いても覚えられないので、要約を書いたり、フラッシュカードを作ったりした」、「やさしい日本語のニュース記事は内容がもの足りないので、普通の新聞記事を読むことにした」などのコメントが見られた。このように個々の学生の意志によって、学習内容や方法を変更するということは、教師主導型の一斉授業ではなかなか難しいことが多い。特に学習者間のレベル差が大きいクラスでは、レベルが合わない、やり方に興味が湧かないなどの

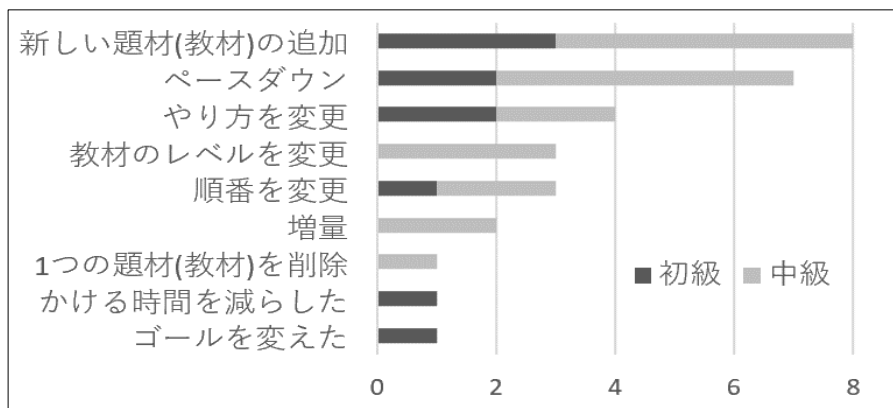


図5 計画の変更理由

不満が生じることは珍しくないと想像できるが、一人ひとりの希望を聞き、全体の計画を変更するのは不可能に近い。しかし、それを可能にするのがセルフスタディーである。学習者らは自ら計画を変更しながら、自分に合った学習方法を見つけ、学習に対するモチベーションを調整していたと言える。この計画の変更について、事項で詳しく見ていく。

### 4.3 学習者の気づき

最終レポートとアンケートから、学習者の気づきをまとめたものを表4に示した。

表4 学習者の気づき

|                  |   |
|------------------|---|
| 題材（教材）の選択における気づき | <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 好きなもの／楽しいものを選ぶのがいい (15)</li> <li>b) リラックスしてできるものを選ぶのがいい (4)</li> <li>c) 自分のレベルに合ったものを選ぶのがいい (3)</li> <li>d) チャレンジできるものいい (2)</li> <li>e) 勉強だと思いつぎない方がいい</li> </ul>  |
| 学習方法に関する気づき      | <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 復習しないとすぐ忘れる (4)</li> <li>b) クラスメイトと一緒に勉強するのがいい (日本人よりいい) (3)</li> <li>c) 勉強したことを忘れないように記録することが必要</li> <li>d) 週間レポートを書くことで、自分の目標を達成するために自分に厳しくなれた</li> </ul>   |
| 計画・目標についての気づき    | <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 毎日少しずつするのがいい (6)</li> <li>b) 教材の追加、変更がいつでもできることがいい (5)</li> <li>c) やる気が大切。目標がはっきりしているとやる気につながる (3)</li> <li>d) 最初にたくさん計画しすぎないこと (2)</li> <li>e) 根気強くやること (2)</li> <li>f) バランス (楽しいことと必要なこと、難しいことと簡単なこと) が大切 (2)</li> <li>g) 時間と集中力が必要</li> <li>h) 計画通り進めることが大切</li> <li>i) やり方が一番自分に合っているものを見つけること</li> </ul> |

\* ( ) は人数、斜体はアンケートからの回答

題材や教材の選択については、「a 好きなもの／楽しいものを選ぶのがいい」というコメントが圧倒的に多く、次に「b リラックスしてできるもの」、「c 自分のレベルに合ったもの」を選ぶのがいいというコメントが続いている。カッコ内の数字はコメントした学習者数であるが、この中のほとんど (a の 15 人中 13 人、b の 4 人全員など) が、最低 1 回は途中で計画を変更している。したがって、これらのコメントを残したのは、初めから好きなものやレベルに合ったものを選んで学習者だけではなく、セルフスタディー開始後に何らかの問題があり、やはり好きなものやレベルに合ったものを選ぶことが大切だと気づき、教材を変更したという学習者が多く含まれると考えられる。

同様に、学習方法に関する気づきにおいても、コメントを書いた学習者の多くが、復習が大切だと感じたり、一緒に勉強する仲間が必要だと気づき、学習方法を変更していたと推測できる。

さらに、多くの学習者が計画・目標に関わるコメントを書いていた。「毎日少しずつするのがいい」というコメントは、毎学期一番多く見られるものである。その他、「追加変更がいつでもできることがいい」、「最初にたくさん計画しすぎないこと」というものもあった。ここでも上記の二項目と同様に、コメントをしたほとんどの学習者が途中で計画を変更している（aは6人中5人、b、dは全員）。つまり、初めに無理な計画を立てたり、1週間に1日だけ長時間勉強するなどして、学習がうまく進まなかったために、計画を立て直し、毎日少しずつ進めることが大切だと気付いた学習者が多いことが窺われる。

今回は学習者全員が途中で計画を変更したわけではないが、全体的に、学習者は自分の立てた目標に向かってセルフスタディーを進めながら、自己モニタリングを行い、そして、自己評価に基づいて計画を調整しながら、自身のモチベーションを維持している様子が見られた。この過程は、自己調整学習<sup>9)</sup>が進む時に見られる3つのプロセス、1) 学習目的の設定、2) 学習方略の策定及び実行、3) 学習の進捗の自己モニタリング（Zimmerman 2000、横山 2019）に基づくサイクルであると考えられることができる。そして、このサイクルが繰り返されることにより、自律した学習者への成長が図られると考えられ、より長期的視点に立って学習者の育成を考える（横山 2019）ためにも、この自己調整学習のサイクルが身に付く活動を授業に取り入れることは重要であると言えるだろう。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、クラス内でのレベル差への対策として行ったセルフスタディープロジェクトについて報告し、学習者の書いたレポートをもとに、彼らがどのように自分自身の学習を調整していたかに注目して分析を行った。その結果、自己調整学習に見られる、学習目的の設定、学習方略の策定及び実行、学習の進捗の自己モニタリングのサイクルが観察され、セルフスタディープロジェクトが自律学習につながる活動であることが示唆された。学習者による計画の変更については、今回は、個々のインタビュー調査を行っていないため、計画の変更がクラスメイトの独学経験者からの影響なのか、教師のコメントの影響なのか、または自身の気づきによるものなのか、全員の理由を把握することはできなかったが、今後、その点も探っていきたいと考えている。

また、自己モニタリング・自己評価については、今回は学習者が文章として提出するものが、最終レポートしかなかったため、途中の学習過程での気づきや反省を知ることができなかった。今後はポートフォリオを取り入れ、定期的な振り返りを行うことを計画している。また、自己評価を今回のように5段階の点数にすることは、成績に対する考え方の個人差もあるため、あまり適切ではなかった。目標や教材を自由に選べるとはいえ、それに成績が関わるなると、完全に自己主導型学習であるとは言えず、成績のために毎週自分に満点を付ける学習者については考慮する必要がある。マレー（2011）のように、学習者と教師の合意によって成績を付けるなど、自律学習の評価の仕方についても、さらに考えていくことを今後の課題としたい。



## 注

i) 自律調整学習とは、学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、自分自身の学習過程に能動的に関与している学習である。(Zimmerman 1986、伊藤訳 2009)

## 参考文献

- 青木直子 (2001) 「教師の役割」 青木直子他 (編) 『日本語教育学を学ぶ人のために』 182-197 世界思想社
- 青木直子 (2010) 「学習者オートノミー、自己主導型学習、日本語ポートフォリオ、アドバイジング、セルフ・アクセス」 『日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する』 第38回、国際交流基金  
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/research/201003.html> (2021年9月3日)
- 青木直子・中田賀之 (2011) 「学習者オートノミー」 青木直子・中田賀之 (編) 『学習者オートノミーー日本語教育と外国語教育の未来のためにー』 1-22 ひつじ書房
- 池田朋子 (2018) 「多様な学習背景を活用した教室活動を考えるー日本語独習者の他者とのつながりに注目してー」 『ジャーナル CAJLE』 19, 1-22
- 池田朋子 (2019) 「独習者が日本語教室に参加する理由を考えるー多様な学習者が相互に学べる教室とはー」 『CAJLE Annual Conference 2019 Proceedings』 106-113
- 池田雅美 (2016) 「独学可能な時代ー多様化する日本語学習歴と授業活動への影響」 『CAJLE Annual Conference 2016 Proceedings』 70-79
- 池田雅美・池田朋子 (2018) 「クラスを構成する学習者の多様化をどう評価し、どう向き合うかー独学者混在クラスのこれからー」 『CAJLE Annual Conference 2018 Proceedings』 114-121
- 伊藤崇達 (2009) 『自己調整学習の成立過程』 北大路書房
- 齋藤伸子・池田智子・ミグリアーチ慶子 (2014) 「日本語プログラムによる日本語学習支援」 『Obirin Today』 14, 13-28
- 中嶋めぐみ・塩島弥生・福田紀子 (2020) 「自律的学習クラスにおける教師の働きかけの機能」 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』 12, 1-9
- マレー, ギャロルド (2011) 「セルフアクセス言語学習ー構造とコントロールと責任ー」 青木直子・中田賀之 (編) 『学習者オートノミーー日本語教育と外国語教育の未来のためにー』 123-145 ひつじ書房
- 村上吉文 (2018) 『SNSで外国語をマスターする〈冒険家メソッド〉』 ココ出版
- 横山悟 (2019) 「学習に対するモチベーション理論及びモチベーション理論に基づいた学習方略理論」 『千葉科学大学紀要』 12, 105-109
- Zimmerman, B.J. (1986). Becoming a self-regulated learner: Which are the key subprocesses? *Contemporary Educational Psychology*, 11(4), 307-313

Zimmerman, B.J. (2000). Attaining self-regulation: a social cognitive perspective. In Boekaerts M, Pintrich PR, Zeidner M (Eds.), Handbook of self-regulation (pp.13-40). San Diego, CA: Academic Press.

### 資料：学習方法

| 題材               | 学習方法   |
|------------------|--|
| アニメ・ドラマ          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見て、要約を書く</li> <li>・ 字幕なしで見る</li> <li>・ 日本語字幕で見る</li> <li>・ 言葉リストを作って覚える</li> <li>・ 文法をピックアップする</li> </ul>                               |
| スピーキング           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シャドーイング</li> <li>・ アニメ・ドラマの吹き替え</li> <li>・ モデル会話を聞いて自分の声を録音</li> <li>・ 日本人との会話(アプリ使用)</li> <li>・ クラスメイトと LINE のオーディオメッセージの交換</li> </ul> |
| JLPT 問題集、技能別教材   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題集をする</li> <li>・ 例文を書く</li> <li>・ 言葉リストを作って覚える</li> <li>・ Quizlet 等でフラッシュカードを作って覚える</li> </ul>   |
| Web 記事 (ニュース・旅行) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要約を書く</li> <li>・ 感想を書く</li> <li>・ 言葉リストを作って覚える</li> <li>・ 言葉を使って例文を書く</li> </ul>  |
| マンガ、本            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レビューを書く</li> <li>・ 言葉リストを作って覚える</li> <li>・ Quizlet 等でフラッシュカード (言葉、文法)</li> </ul>  |
| 日本の歌             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞の意味を調べる</li> <li>・ 翻訳する</li> <li>・ 言葉・フレーズを書く</li> <li>・ レビューを書く</li> <li>・ 日本語の歌を作る</li> <li>・ 漢字リストを作って覚える</li> </ul>               |
| ゲーム              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を翻訳する</li> <li>・ 言葉リストを作って覚える</li> </ul>  |
| YouTube レッスン     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フレーズを覚える</li> </ul>   |
| マンガの表紙を作る        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表紙に使えるフレーズを探す</li> <li>・ 絵を描く</li> </ul>  |